

株 式 会 社 エ ー ワ ン 精 密

2023 年 6 月 期 決 算 説 明 会

2023 年 6 月 期 決 算 説 明 会 資 料 目 次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	2
② 事業内容・特色	3
③ 自動旋盤用カム部門	4
④ コレットチャック部門	5
⑤ 切削工具部門	6
(2) 決算について	
① 決算の概要	7
② 損益の状況	8
③ 財務の状況	9
④ キャッシュ・フローの状況	10
(3) 今後の事業展開	
① 自動旋盤用カム部門	11
② コレットチャック部門	12
③ 切削工具部門	13
(4) 添付資料	14

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

自動旋盤用カムの製造・販売 1970年(昭和45年)～

コレットチャックの製造・販売 1976年(昭和51年)～

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作 1999年(平成11年)～

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

15,000社以上の顧客からリピートオーダーが入る

自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用するカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

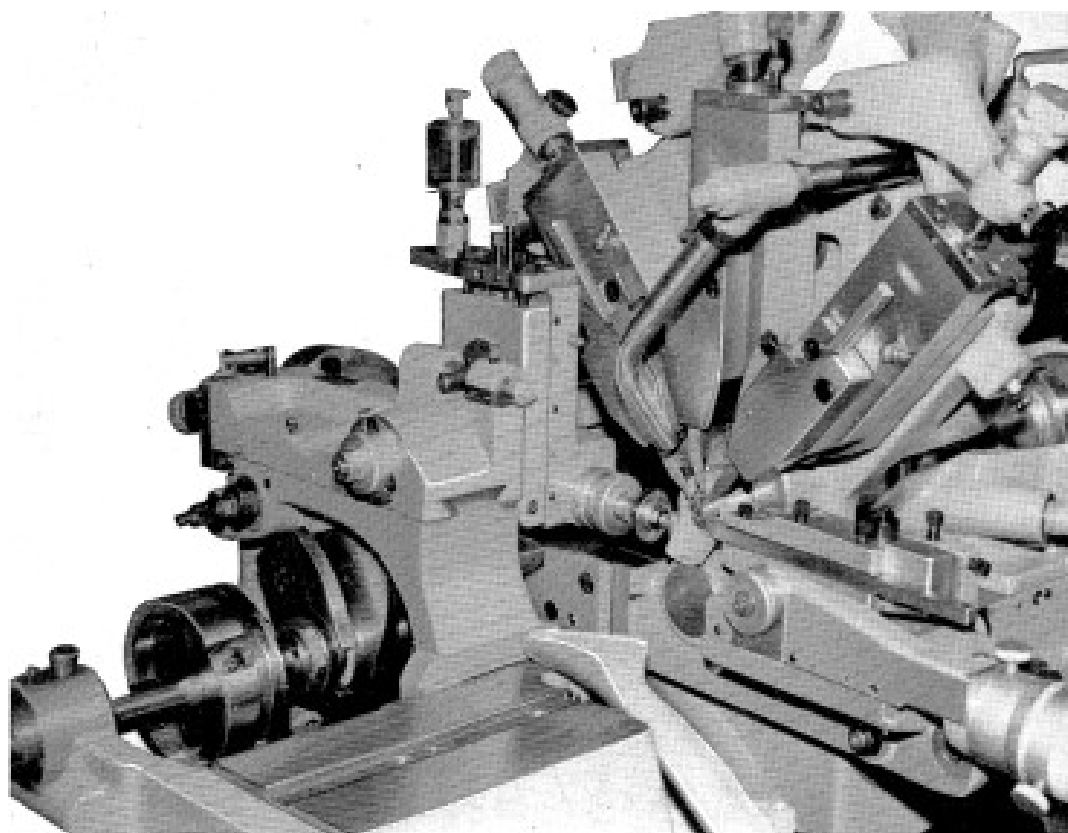
製品写真



カム式自動旋盤(型番:NS-P1053)



カム取付後写真



コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

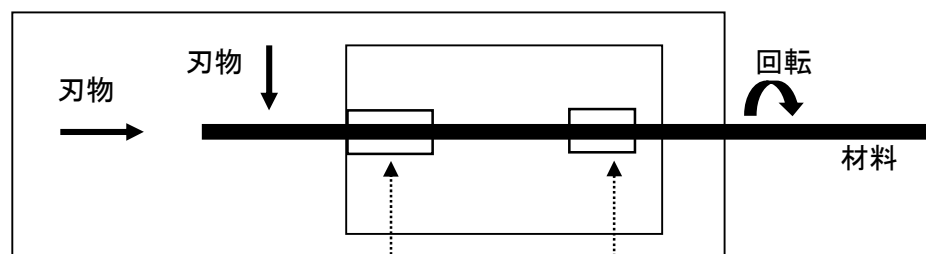
NC旋盤 3,059億円(2022年生産額) 18,450台
うち 小型CNC自動旋盤 約 1,672億円(2022年新規販売額)

主な小型CNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ、高松機械、エグロ

特殊コレットチャック

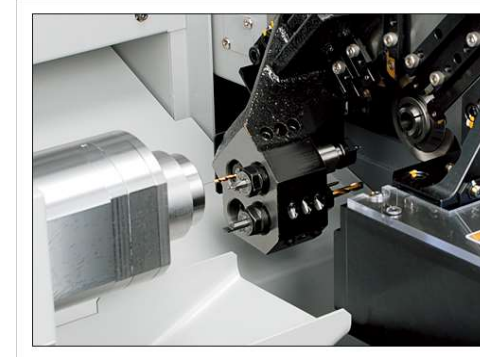
専用機 523億円(2022年生産額) 1,817台



ガイドブッシュ



コレットチャック



加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、
医療機器、ガス・水道栓、住宅機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター	2,327億円(2022年生産額)	24,515台
NCフライス、中ぐり盤	121億円(2022年生産額)	544台

使用される工具	超硬エンドミル	537億円(2022年生産額)
	超硬ドリル	436億円(2022年生産額)
	その他超硬工具	371億円(2022年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削し部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型

加工部品のイメージ



2023年 6 月期 決算概要

売上	半導体、部品不足で停滞していた自動車生産は徐々に回復してきたが、半導体メモリーの在庫調整、電子部品などの減速で製造業の業況は悪化。 2023年4－6月は減速が鮮明になった。
原価	材料価格・電力費の上昇、人件費引き上げ、従業員向け株式報酬費用により費用は上昇
利益	受注減少、費用増加により利益率は低下。

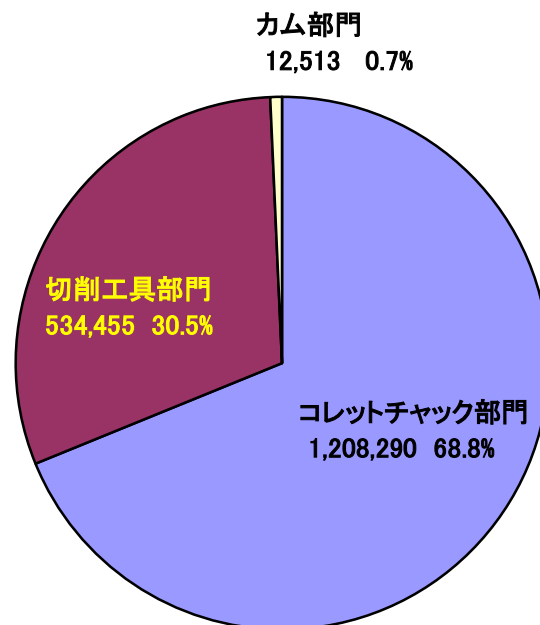
人件費

	(千円)	
	32期	33期
労 務 費	828,965	863,691
コストに占める比率	57.8%	58.4%

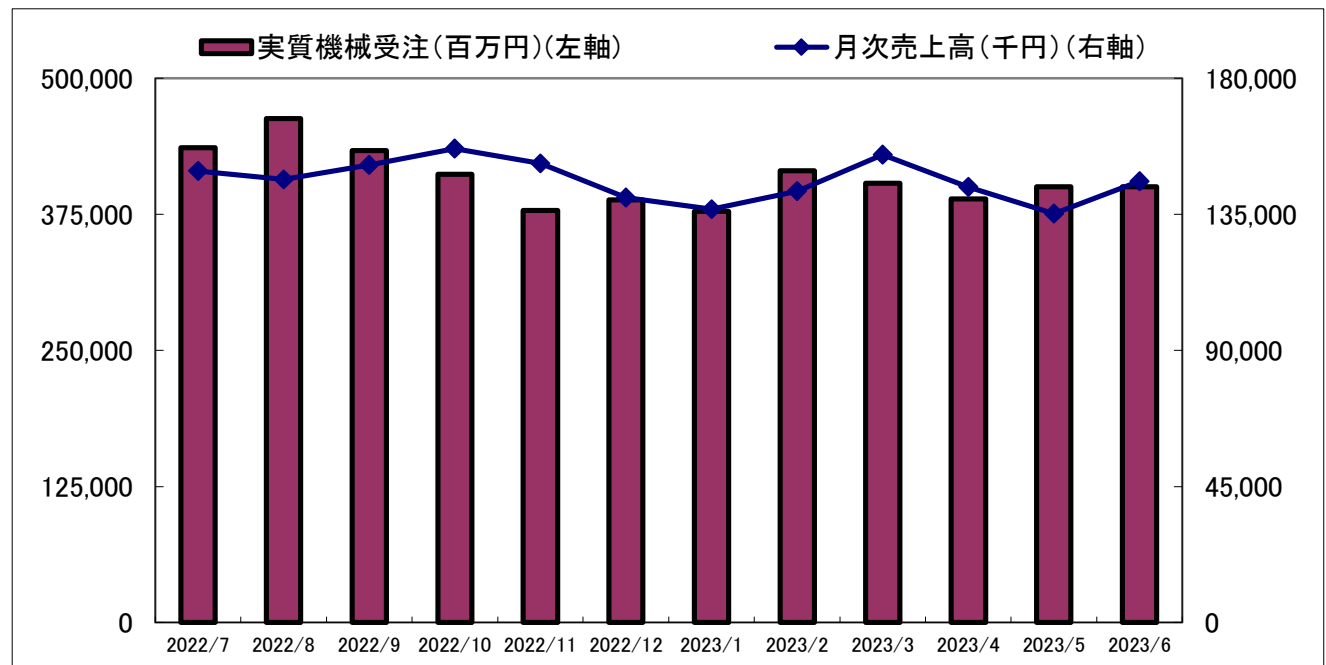
設備投資額と減価償却費

	(千円)		
	31期	32期	33期
設備投資額	139,244	184,647	70,024
減価償却費	181,233	154,284	161,251

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



2023 年 6 月期 損益の状況

(単 位 : 千 円)

	2022 年 6 月期			2023 年 6 月期			増 減 要 因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	1,305,867	69.9%	111.9%	1,208,290	68.8%	92.5%	量産部品加工が全般に低下傾向となり、当部門の売上も減少。
切削工具	542,728	29.1%	112.7%	534,455	30.5%	98.5%	市販切削工具の再研磨は減少、新たな取引きの増えた別注切削工具は微増。
自動旋盤用カム	19,465	1.0%	92.5%	12,513	0.7%	64.3%	カム式自動旋盤で加工する量産部品は減少し、当部門の売上は大幅減少。
合 計	1,868,061	100.0%	111.9%	1,755,258	100.0%	94.0%	
売上原価	1,147,841	61.4%	111.3%	1,199,161	68.3%	104.5%	労務費増加、電力費上昇。
売上総利益	720,220	38.6%	112.8%	556,097	31.7%	77.2%	受注減とコスト上昇により、利益率低下。
販売費及び一般管理費	287,148	15.4%	110.5%	280,557	16.0%	97.7%	
営業利益	433,071	23.2%	114.3%	275,539	15.7%	63.6%	
経常利益	444,456	23.8%	114.0%	281,694	16.0%	63.4%	
当期純利益	310,445	16.6%	115.6%	191,935	10.9%	61.8%	

2023 年 6 月期 財務の状況

(単位: 千円)

事業年度 資 産	2022 年6月期		2023 年6月期		増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	6,965,864	73.5%	6,814,158	74.0%	
売上債権	386,287	4.1%	327,118	3.6%	受注減に伴い微減。
棚卸資産	269,073	2.8%	300,969	3.3%	
その他流動資産	98,491	1.0	96,209	1.0%	
固定資産	1,759,767	18.6%	1,668,136	18.1%	
資 産 合 計	9,479,485	100.0%	9,206,592	100.0%	
負 債・資 本					
買入債務	18,589	0.2%	15,497	0.2%	
その他流動負債	246,901	2.6%	186,004	2.0%	
固定負債	525,040	5.5%	573,977	6.2%	退職給付引当などの自然増。
負 債 合 計	790,531	8.3%	775,480	8.4%	
純資産合計	8,688,953	91.7%	8,431,111	91.6%	株主還元率を高めて純資産を圧縮。
負債・純資産合計	9,479,485	100.0%	9,206,592	100.0%	

2023 年 6 月期 キャッシュ・フローの状況

(単 位 : 千 円)

	2022年6月期	2023年6月期	対前年比増減額	増 減 要 因
営業活動によるキャッシュ・フロー	606,192	422,915	▲ 183,276	主な増加要因：税引前当期純利益 281,694千円 減価償却費 161,251千円 主な減少要因：法人税等の支払額 188,578千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 185,115	▲ 73,092	112,023	主な減少要因：有形固定資産の取得による支出 69,885千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 336,641	▲ 501,682	▲ 165,040	配当金の支払額： 500,777千円
現金及び現金同等物の増減額	84,434	▲ 151,858	▲ 236,293	
現金及び現金同等物の期末残高	1,127,547	975,689	▲ 151,858	

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム 部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

- ◇市場規模が小さく、既存の中小企業が継続しているが廃業により供給メーカー減少

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門



小型CNC自動旋盤用コレットチャック

推定市場規模 20～30億円

メーカー 4社程度

その他 専用機コレットチャック

メーカー 3、4社程度

<今後の方向性>

- ◇小型精密部品分野では今のところ代替する加工方法は少ない(コスト、時間などを考慮して)
- ◇世界的に小型精密部品に要求される精度、加工難易度は厳しくなる傾向

<国内の状況>

- ◇CNC自動旋盤 シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ3社で世界の大半を占めている
- ◇国内で推定 12 ～ 13万台の機械が稼働している

<当社の対応>

- ◇加工部品に合わせた顧客ごとのオーダー品のコレットチャック対応
- ◇増大する高精度コレットチャック需要に対応した設備・人材の確保・拡充

今後の事業展開～切削工具部門

対象企業	主要加工内容	切削工具の状況		当社の受注	競合状況
大手メーカー 自動車・重電・航空機など 100社程度	量産部品加工 小ロット大物加工	切削工具内製、外部購入(工具商社経由) 社内再研磨、メーカー再研磨		△ △	内製、グループ会社 切削工具メーカー
準大手・中堅メーカー 従業者100名以上 13,000社程度	量産部品加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	○ ◎	
中小加工企業 18万社程度	単品加工 設備・治具、金型	市販切削工具	再研磨外注	○	再研磨会社 150社程 全国規模 4～5社 地域型、個人経営 工具商社系 特注切削工具 大手・中堅メーカー 10社程度 中小規模メーカー 数十社
	小中ロット加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	◎ ◎	

<市販切削工具の例> 再研磨

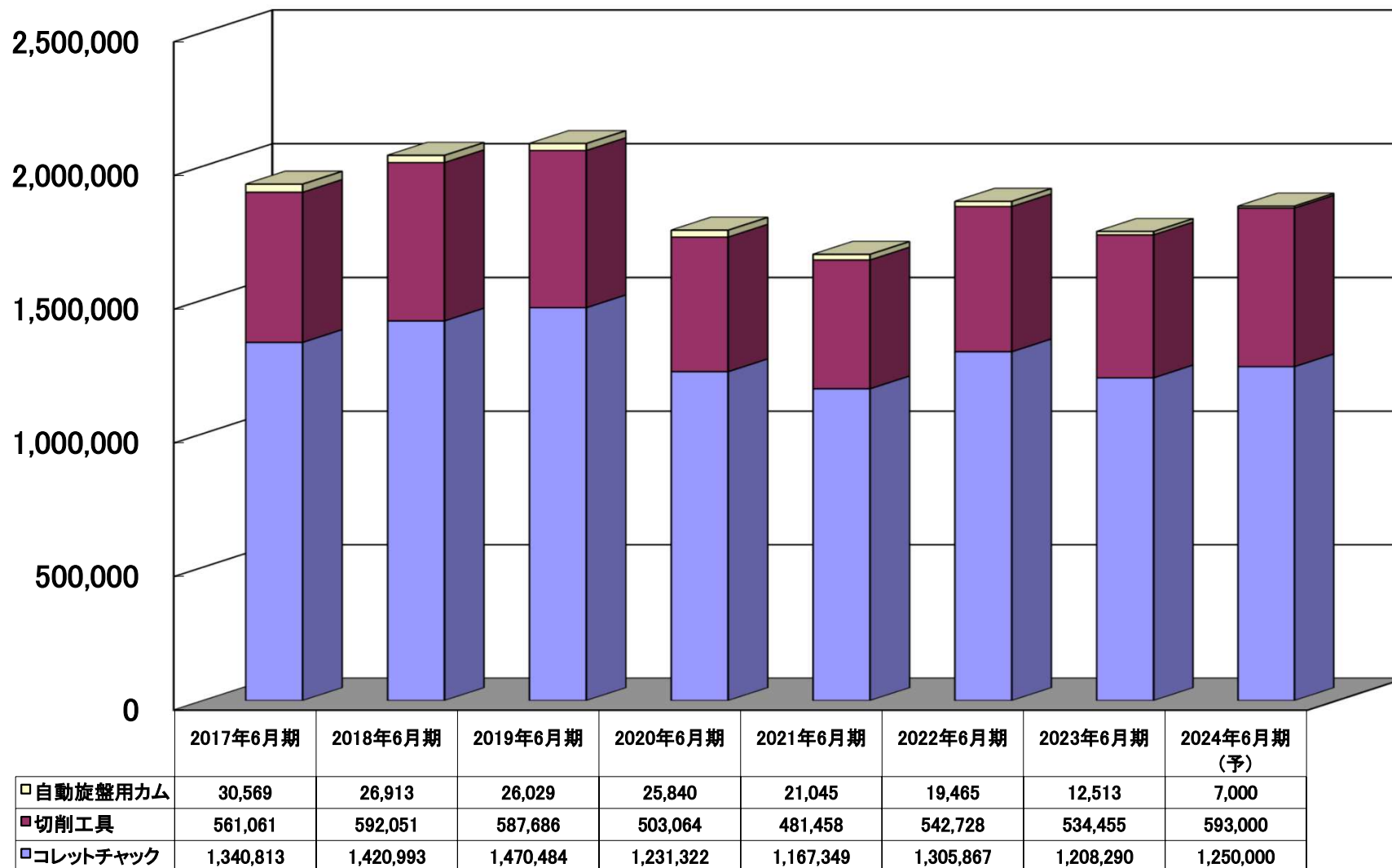


<特注切削工具の例> 製作および再研磨



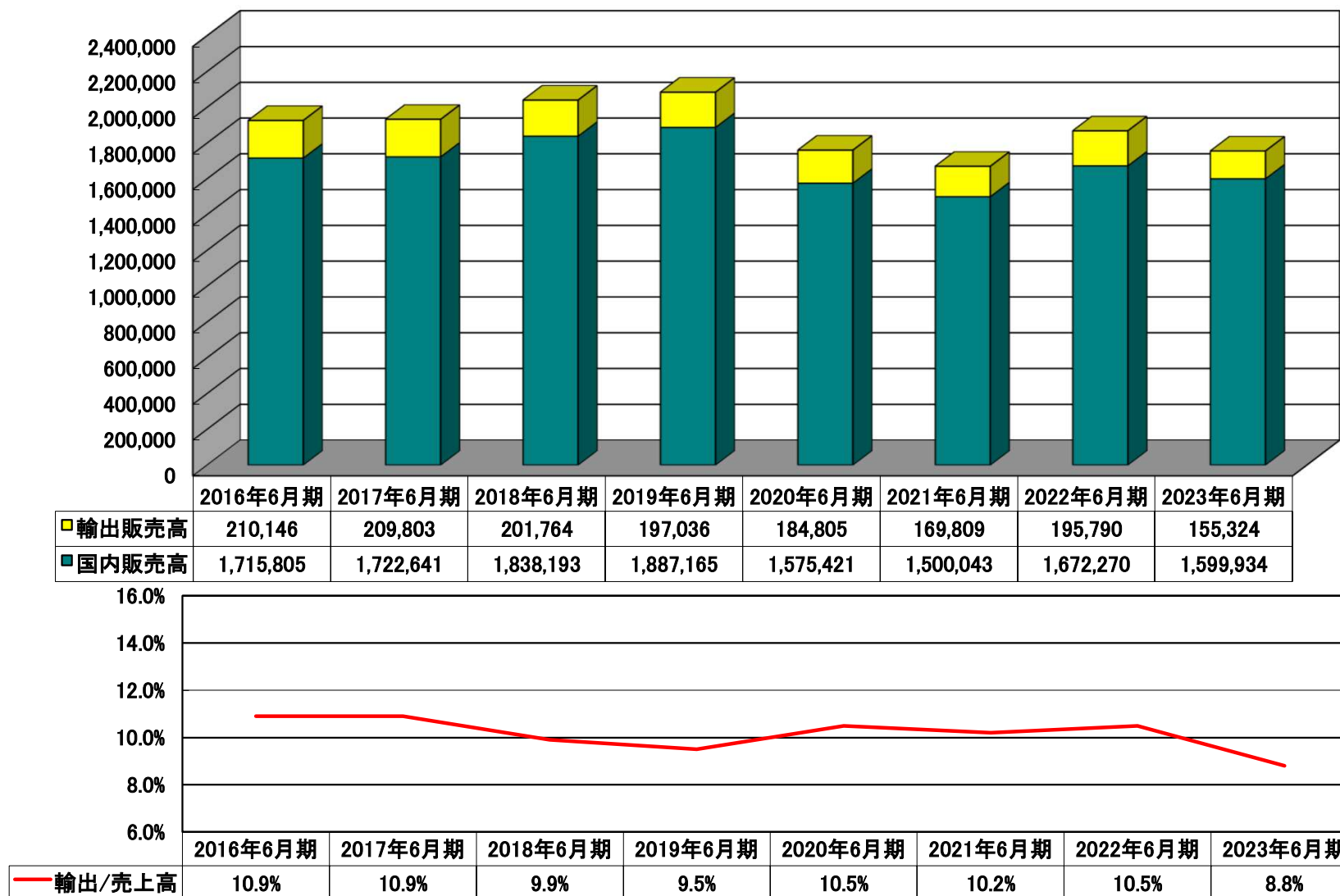
部門別売上状況

(単位：千円)

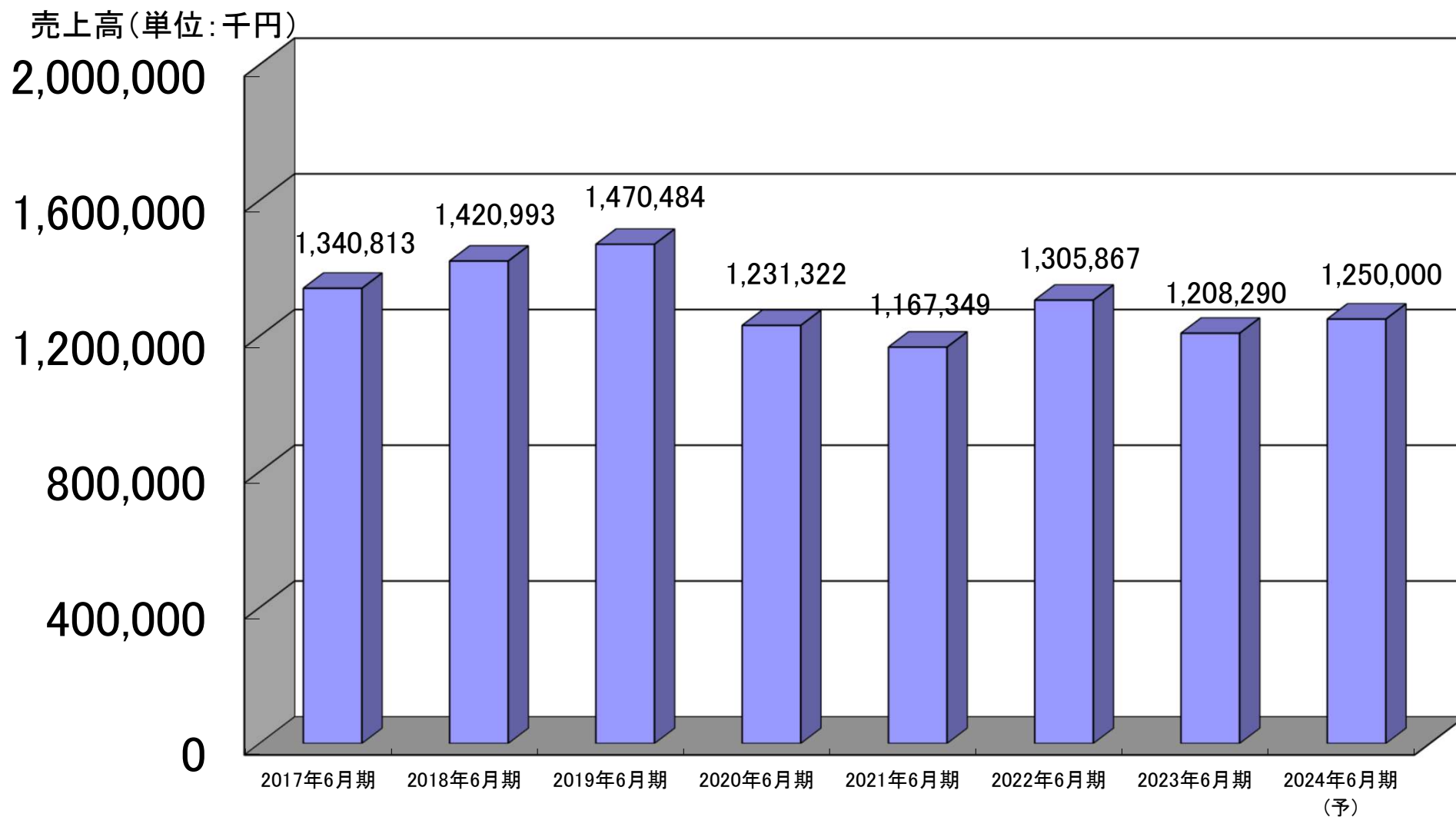


輸 出 売 上 状 況

(単位：千円)

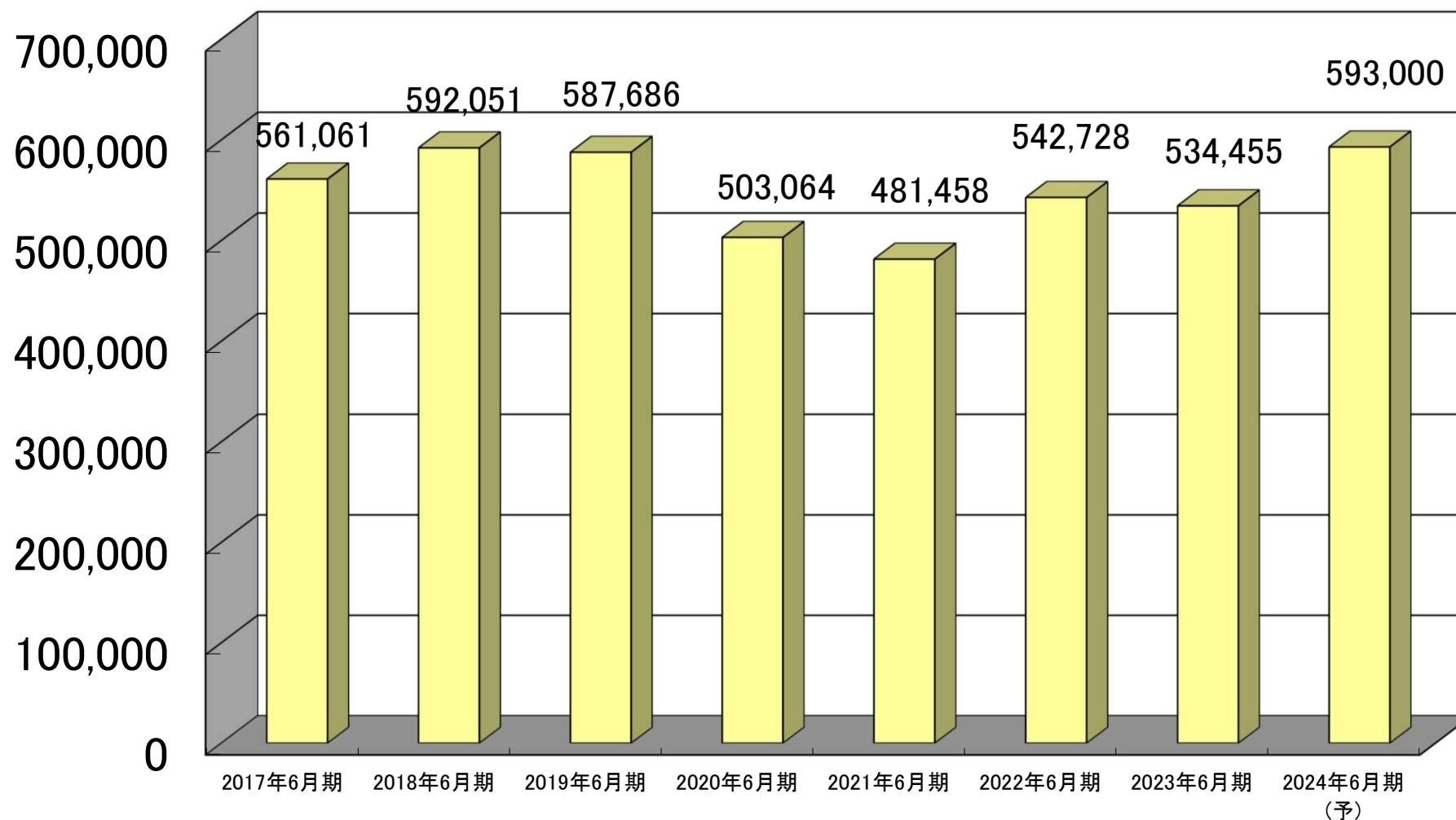


部門別状況 ～ コレットチャック部門



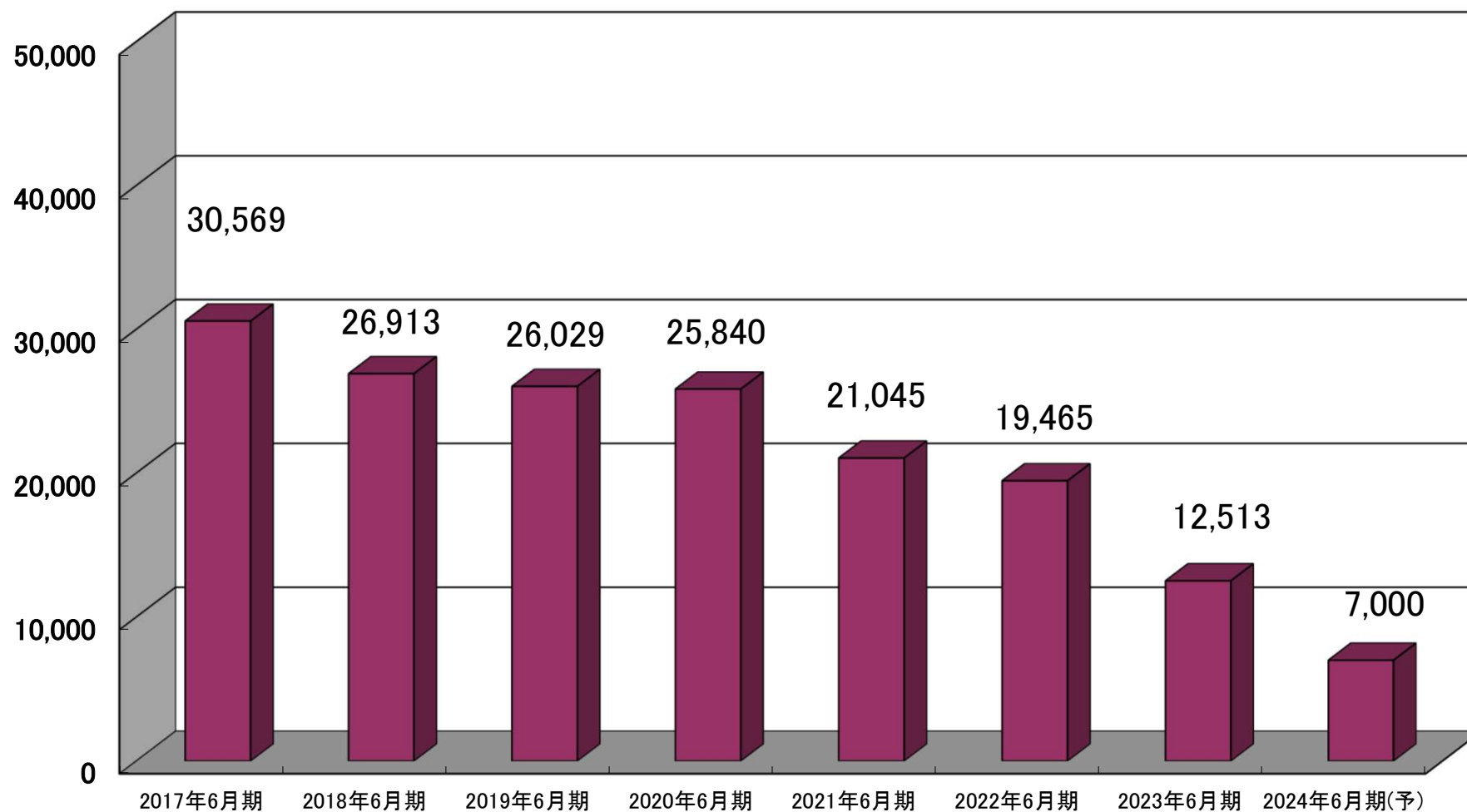
部門別状況 ～ 切削工具部門

売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

売上高(単位:千円)



設 備 投 資 と 減 価 償 却

	2019年6月期	2020年6月期	2021年6月期	2022年6月期	2023年6月期
設備投資額 (単位:千円)	78,360	167,456	139,244	184,647	70,024

	2019年6月期	2020年6月期	2021年6月期	2022年6月期	2023年6月期
減価償却費 (単位:千円)	175,961	177,766	181,233	154,284	161,251

切削工 具 部 門 の 戦 略 と 受 注 状 況

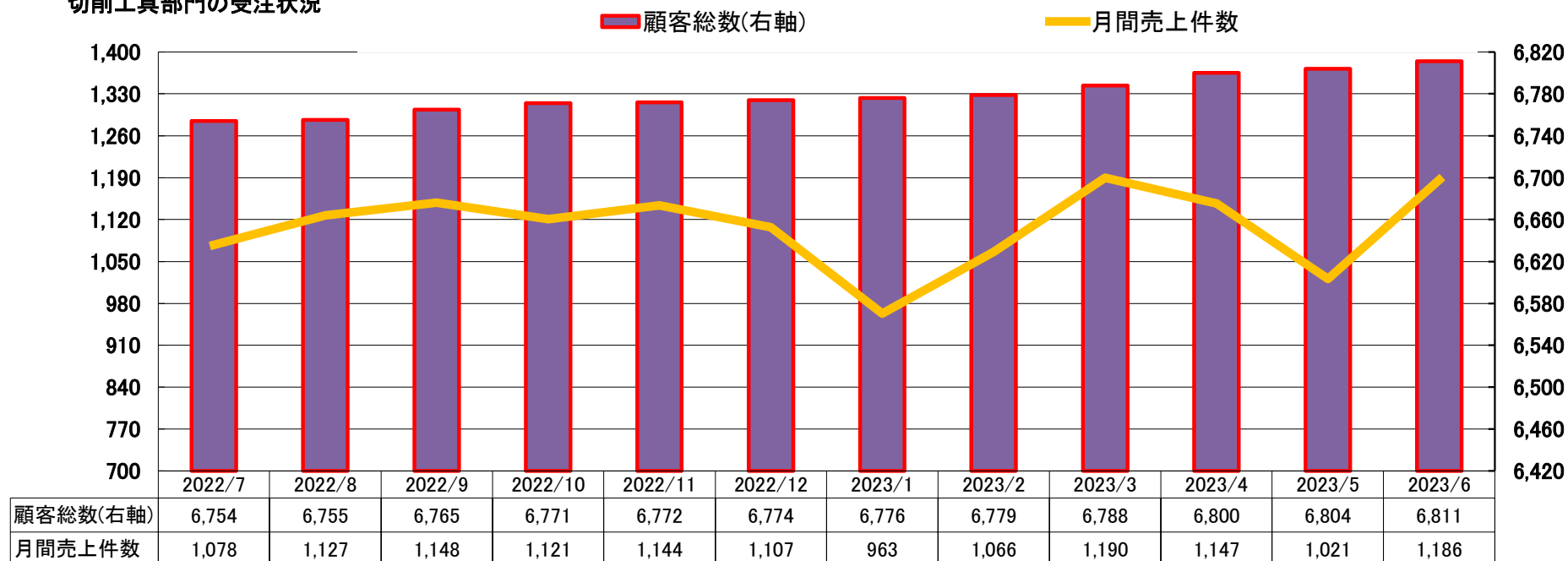
受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

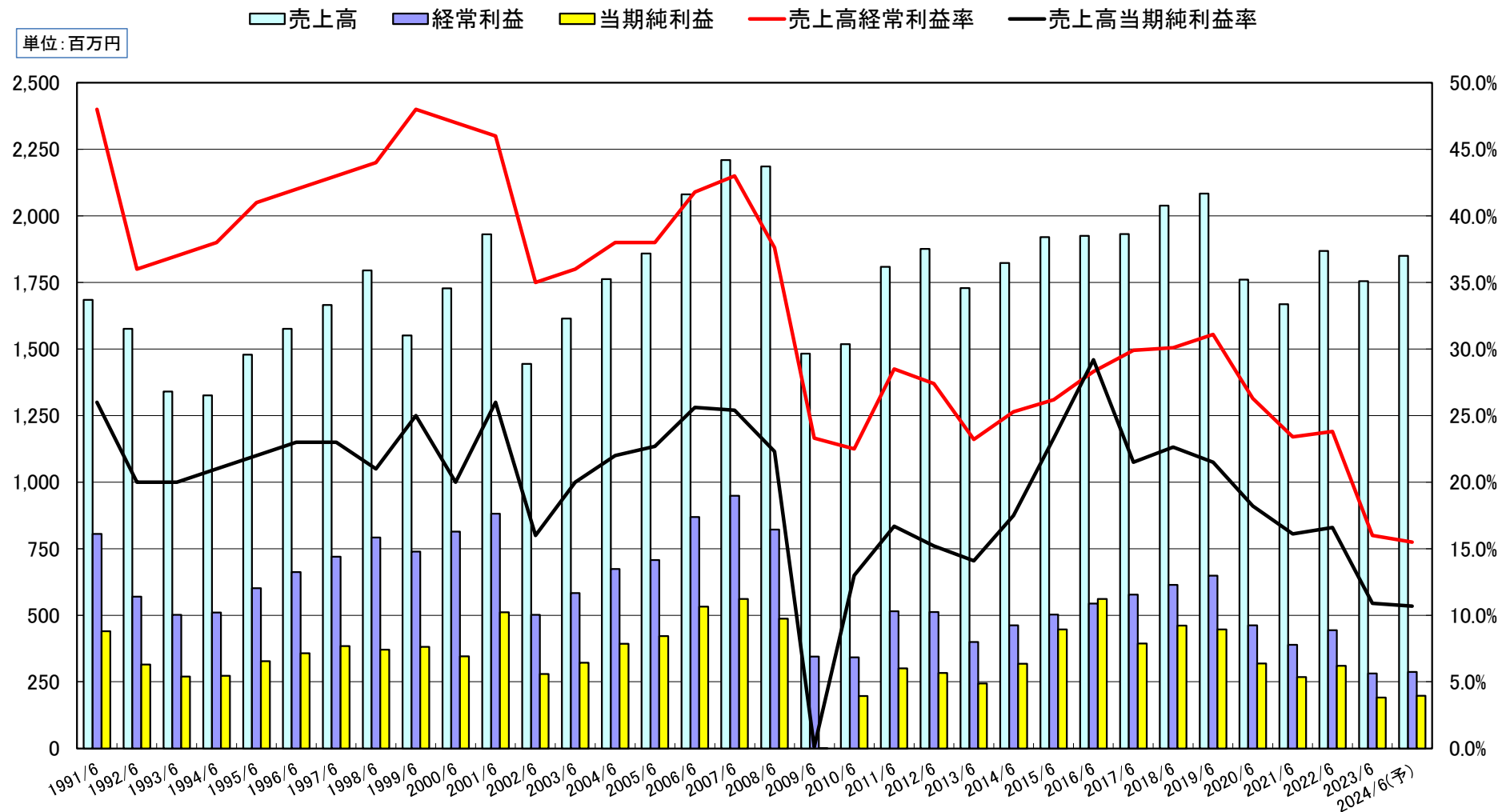
営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

特殊切削工具の対象先を絞り、顧客層の拡充を図る

切削工具部門の受注状況



業 績 の 推 移



実質機械受注と月次売上高

